Japan Hang & Paragliding Federation ● https://jhf.hangpara.or.jp
JHFレポート247号
2024年10月30日発行

JHFREPORT

「2024パラグライディング日本選手権 in ASHIO」より。撮影：中村浩希（14ページに報告を掲載）

空の日に日本航空協会表彰・国際航空連盟賞伝達

9月20日の「空の日」に合わせ恒例の日本航空協会表彰式が行われ、「航空宇宙に関する文化・科学技術・事業ならびにスポーツなどの発展に著しく寄与した方、またはグループ」に航空亀齢賞、航空功績賞、航空特別賞、空の夢賞が授与されました。また、併催された国際航空連盟（FAI）賞伝達式では、三つの賞の授与が伝達されました。

ポールティサンディエディプロマ

航空一般、特に航空スポーツ発展のために献身的努力を傾注し、団体組織等で指導的役割を果たし、その業績が顕著である個人に授与される賞。マイクロライト航空の普及振興に尽力された中森良輝さんが受賞されました。

FAIエアスポーツメダル

航空スポーツに関連した委員会業務、競技会運営、若年層の教育訓練等に顕著な功績や貢献があった個人または団体に贈られる賞。熱気球の菅原博治さん、グライダーの林和成さん、マイクロライトの滝野浩さんが、それぞれの航空スポーツの普及振興に貢献されたことにより受賞されました。

受賞された皆さま、おめでとうございます。

スポーツくじ
WINNER SOCCER・BASKETBALL　toto　BIG
JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

今一度、基本に立ち返ってみましょう。

JHF安全性委員会　委員　金井 誠

このスポーツは、飛ばない人が思っているほど危険ではないけれど、飛んでる人が思っているほど安全ではない。

■

ベテランと言われるような方の事故が相次いでいます。経験を積んで上手くなっているはずなのに何故でしょう？

死亡などの重大事故１件が発生する陰では、同じような事故での軽い怪我が29件、そして300件の結果オーライ（怪我無し）が潜んでいます（ハインリッヒの法則※1）。

今まで何度も事故を起こしても怪我をしなかったフライト経験が、生存者バイアス（※2）をかけているのではないでしょうか。

安易な「ツリーラン」で片付けない

山で聞こえた恐ろしい話。

「今まで何回もツリーランして助かっている。木がクッションになるから安全なのだ。だからツリーランは事故じゃない！」

いやいや、事故以外のなにものでもないですよ。スタ沈して枝で首を吊った、折れた枝に胴体が刺さった、木から降りる時に滑落した、木にぶつかった時に足を骨折し開放部から雑菌が入って搬送中に亡くなったなどなど、実際には木に引っ掛かってからの死亡事故が多数起きています。

たまたま枝ぶりが良くて無傷で済んだからといって「木に行けば安全」と勘違いしてしまうと、何で墜落したのかを分析もせず対策もしないで繰り返してしまい、いつかは重症事故、死亡事故に至ります。山肌の木に墜落した事故を「ツリーラン」と称するのもどうかと思います。

レッグベルトを締め忘れたのに気がついて対地高度が大きくなる前に木に引っかけたとか、苦渋の選択もあると思いますが、その事故の対策としてはクロスチェックでレッグベルトの締め忘れを無くすべきです。

山肌近くのウインドグラジェントの影響を考慮しないで山肌に寄り過ぎたとか、ブレークコードの引き過ぎでスピンに入れてしまったとか、サーマルで潰されてカウンターをあてずに山側に回してしまったとか、必ず原因があります。きちんと分析して対策を行いましょう。

外れくじをひいていないだけかも

他にも、大事に至らなかった経験がバイアスをかけてしまい、怖い話がたくさん語られています。

「クロスチェックなんてしたことないけど間違えたことはない、本人が大丈夫と言っているのに失礼だ。責任はお前が取るのか？」

「もっと強いサーマルでも飛んだことがある」

「クラバットになったけど意外と大丈夫だった」

「機体同士は接触してもすぐに離れて回復するもんだ」

「ハングやパラは航空機じゃないんだからうるさい事を言うなよ。旅客機の進入路に入ったけれど今まで衝突したことはない」

語るご本人は威勢がいいですが、たまたま「外れくじ」を引いていないだけかもしれません。

同じような事をしても、もう何も言えない人がいます。それは300本のくじから１本の外れくじを引いてしまって、もうこの世に居ないから。

ベテランも新しい基本の更新を

JHF教本や現場の教員がスクールでお伝えしていることは、本当の基本です。基本＝初心者だけのものとバカにしないでくださいね。先人の貴重な犠牲の上で知り得た教訓や技術です。そして日々進化しています。ベテランの方も新しい基本をいつも更新していただきたいです。

スクールでの基本とは、いわば医療界で言えば標準治療です。標準治療とは、高等ではない安っぽい治療という意味ではなくて、多くの臨床試験の結果をもとに専門家が集まって検討を行い最善であると合意の得られている治療法です。現在の一番確実な治療という意味です。先端医療とか治験とかカッコいい響きですし、それも貴重な事ですがリスクは非常に大きいです。

安全性委員会では各地の事故を分析し対策を検討します。時には教員・スクール事業委員会や安全性委員会の委員が実験台になって作り上げてきた知見が、大事な基本として教本に詰まっています。パイロット技能証までの実技課目になっています。

積み重ねてきた知見を生かすこと

たとえば、一次前線通過後の晴れ間で飛び始めたら二次前線がやって来て木の葉のように振り回されたこと。運よく生き延びた者は、生かして貰った者は、その経験を正しく生かさねばなりません。ベテラン教員が前線通過後に晴れ間が出てきていい風になっても「ちょっと待って」と言うのには、しっかりとした理由があるんです。教本では僅か10行の文ですが大きな犠牲から得た知見が入っています。

様々な技術もたくさん試して失敗してきました。降下手段だけでもAストール、ホースシュー、Bライザースパイラル、耳折りスパイラルetc.あれこれ提唱されて何人も墜ちて結局残ったのが耳折りとスパイラルです。

最近ではスパイラルロックの解明もありました。航空法や小型無人機等飛行禁止法など私たちを取り巻く法律もどんどん改正されています。今はハンググライダー／パラグライダーは特定航空用機器として明記され、飛行禁止区域の飛行に対して警察がパイロットを逮捕することが出来ます。これらはみんな新しい教本には反映されていますので、読んで、わからない事は最寄りの教員に聞いてくださいね。

基本に立ち返り楽しく飛び続ける

未だにレッグベルトの締め忘れ事故が多発していますが、基本に立ち返って、きちんとセルフチェックをした後に教員・助教員かパイロットにクロスチェックをして貰えば必ず防げる事故です。これが現在の基本です。

いままで各地でたくさん飛んで、たくさんの事故を目にし、たくさんの友達を亡くしてきました。もう事故はたくさんです。

なので、皆さん、生存者バイアスを外して基本に立ち返りましょう。基本を守って楽しく飛びましょう。

■

※1　ハインリッヒの法則：労働災害における経験則のひとつで「１件の重大事故（死亡など）の背景には29件の軽微な事故（怪我など）があり、またその背景には300件の異常（ヒヤリとかハッとしたが無傷なこと＝インシデント）が存在する」というもの。航空機の世界では300回のヒヤリハットがあれば、１機は墜落とも言われています。

※2　生存者バイアス：何らかの選択過程を通過した人・物・事のみを基準として判断を行い、その結果には該当しない人・物・事が見えなくなること。たとえば、ある事故の生存者の話を聞いて「その事故はそれほど危険ではなかった」と判断するという事例がある。それは、話を聞く相手が全て「生き残った人」だからである。たとえ事故による死者数を知っていたとしても、当然、死んだ人たちの話を聞く方法はなく、それがバイアスにつながる。

「防げる事故」を無くそう！ クロスチェックを徹底してレッグベルト締め忘れをゼロにする

今年もレッグベルト締め忘れによる重大事故が発生してしまいました。2005年以降の調査結果では10人目の死亡事故です。このJHFレポートに同封している注意喚起紙面をよくご覧いただき、フライヤーが協力しあうクロスチェックを徹底し、二度とこのような事故が起きないようにしましょう。

「防げる事故」とは、レッグベルト装着だけの問題ではなく、レスキューピンの状態確認、ラインチェック、無線チェック、気象判断、フライト中の接触（崖、樹木、建造物など）、また誤ったフライトプラン（誰も飛ばない強風時など）も含まれます。確実な確認と無理をしない判断、自分に適した機材であれば、安全に楽しく飛べるはずです。より一層、リスクを減らせるように自分自身のルーティーンを含めて、周囲、仲間の様子も見渡して安全意識を高めましょう。

他機との距離に余裕を持つこと

今年、空中接触が原因でパラグライダーが裂ける事故（写真）が発生しました。空中接触を起こさないように余裕をもった距離を確保しましょう。そして、必ず周囲を確認してから旋回を行うこと。飛行ルールもしっかりと身につけておきましょう。

セーフティノーツ

□SKYWALK社製ハーネス BREESE2

2024年８月30日、Skaywalk社より、BREESE2ハーネスのレスキューパラシュートコンテナポケットに利用されている白いループの切断が発生した件について発表されました。もしも切断が起きた場合には、飛行はせずに購入先へお問い合わせください。

リンク先：Skywalk社

JHFウェブサイト、安全性委員会のページに、機材メーカー等が発表する耐空性改善に関する通報「セーフティノーツ」があります。詳しくは委員会ページをご覧ください。

2024年の事故報告 ６月14日～８月25日

	日付	機種	事故内容	EN	年齢	経験	性別	技能証	怪我の状況
17	６月14日	PG	競技中、ゴール後、急旋回しポールに翼が接触、落下		52	25	女	X	足首開放骨折
18	６月15日	HG	L/Dアプローチのミスによりクラッシュ		76	43	男	X	頭部強打
19	７月14日	PG	海岩リッジソアリング中に接触。10m。防災ヘリ救助		71	31	男	X,T,I	無傷
20	７月20日	PG	着陸時寸前に落下	D	69	20	男	XC,TD	足、骨折
21	７月31日	HG	コントロールバーを強く引き急激に降下し木に衝突		53	2	男	B	左額４～５cm裂傷
22	８月４日	PG	T/Oスタチン（離陸後木に衝突）	C	56	7	男	P	足、骨折
23	８月10日	PG	アプローチ時に5-6ｍから失速スピン落下。PGは20年～前	C	38	11	男	P	背骨圧迫骨折
24	８月21日	PG	空中接触後、機体が裂けて約5-60ｍアスファルトに落下	B	78	20	男	XC	背骨、一部ひび
25	８月25日	PG	レッグベルト付け忘れ落下		71	35	男		死亡

JHFの動き

内藤邦裕氏を講師に迎え 気象についての講演会を開催

ハンググライダーのパイロットで気象予報士の内藤邦裕氏による講演会を１月25日（土）午後に東京の会場で開催の予定です。オンラインでも全国の皆さまに視聴いただけるようにします。詳細が確定しましたらJHFウェブサイトでご案内します。お楽しみに。

なお、講演で取り上げてほしいことを募集します。下のQRコードまたはURLからご要望をお寄せください。

https://forms.gle/LcQKUiJQJ1LmJTw4A

スポーティングライセンス 申請料が改定されました

2024年10月１日申請受付分より、スポーティングライセンスの申請料が下記のように改定されました（税込）。

１年：2,970円　　２年：4,620円
５年：8,030円　　再交付：2,310円

詳しくは日本航空協会ホームページ「お知らせ」をご覧ください。
https://www.aero.or.jp/news/12413/

なお、更新申請の受付は原則有効期限が切れる１ヶ月前からとなりますのでご注意ください。

海外でのフライトには IPPIカードの携帯を

国際航空連盟（FAI）／ハンググライディング・パラグライディング委員会（CIVL）が定める技能証規程に基づいて発行される国際技能証（IPPI）は、FAIに加盟する世界100以上の国々で通用します。

JHFは日本におけるハング・パラグライディング統括団体として、この技能証を発行する権限を移譲されており、お手持ちのJHF技能証のレベルに該当するIPPIカードを発行します。発行申請料は3,000円です（＊）。

海外でフライトを計画される場合は、事前にIPPIカードを取得して、JHF技能証と合わせてお持ちください。

＊技能証申請と同時申請の場合、現在は1,000円ですが、諸経費値上げ等もあり2025年１月１日以降は3,000円になります。ご了承をお願いします。

上級タンデム受検に向けて 練習会に参加しませんか

かねてから要望の多かった上級タンデム検定の練習会を今年度から始めました。検定項目の意図や採点のポイントの解説を検定員から受けた上で、実際に練習フライトができます。

上級タンデム技能証の検定を受けようと思う方は、まずは練習会に参加してみてはいかがでしょうか。

参加費：２万円（エリア利用料、テイクオフへの送迎料金等は別途）　最少開催人数：３名

現在の開催予定は、12月９日～10日に和歌山県紀の川エリアが決まっています。ご希望の方はJHF事務局までメールにてご連絡ください。

また、上級タンデム検定は11月19日～20日、１月に朝霧で予定しています。詳細が確定しましたらJHFウェブサイトでご案内します。

JHFレポート アンケートにご協力ください

JHFレポートを、さらに役に立ち、さらにおもしろいものにするため、フライヤー会員の皆様向けのアンケートを実施しています。スマートフォンからも簡単に回答できますので、ぜひご協力ください。よろしくお願いします。

【質問】
□JHFレポートの記事でよく読むもの
□これまでのJHFレポートで、特におもしろかった／興味深かった記事
□安全に関する記事はどの程度読みますか
□フライヤーズボイスに取り上げてほしい人（自薦他薦問わず）
□今後JHFレポートに掲載してほしい記事
□JHFレポート最新号の感想
□スポーツ振興くじ助成金を受けて発行していることを知っていますか

回答は下のQRコードまたはURLからお願いします。

https://tinyurl.com/jhfrepq

フライヤー会員の皆様へ
メールアドレスを登録してください

登録はこちら↓

JHFでは、会員管理システム等の改修をするための準備をしています。今年10月の郵便料金値上げへの対応、事務効率化のため、システム改修後は更新通知や会員証等の発行、発送等について、メールを利用してご案内していく予定です。

また、技能証の申請や発行もオンラインでできるように、マイページで住所変更届けなどができるよう、検討をしていきます。

つきましては、左のQRコードまたは本文最後のURLから、お名前、メールアドレスなどをご登録ください。

会員サービス充実のため、経費削減のため、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

【入力項目】
フライヤー登録番号
氏名
生年月日
メールアドレス
携帯電話番号
【登録サイト】
https://sites.google.com/view/jhf-online/

県連だより

■航空スポーツ教室でVRフライト
東京都ハング・パラグライディング連盟

８月３日と４日、二日間の航空イベントを東京有明の広域防災公園で実施しました。これは日本航空協会（JAA）が熱気球のイベント「空を見上げて」と一緒に開催する「航空スポーツ教室」で、おもな航空スポーツ団体が協力し一般の来場者にそれぞれの体験を無償提供するものです。長年にわたり毎年８月に実施され、コロナ禍でお休みや縮小があったものの、変わらず航空スポーツの魅力を発信しています。

今回もJHFの参加協力に合わせ東京都連からブース運営のお手伝いを実施したわけですが、近年は東京でもこの時期熱中症警報が出されるなど危険な暑さへの対応が必要になっています。もともと熱気球は風に弱く早朝にしか係留体験できなかったので今年はJAAも10時11時にはイベント終了とし、猛暑を避ける運営となりました。

何年も前にはJAA所有の体験専用パラグライダー「ジャスパラ」を使用してマンパワーで子供たちの浮遊体験をしたのですが、危険な暑さ対策で近年はフライトVRで疑似体験をしてもらうようになりました。これだと子供たちと訪れた大人もハングやパラの空中感覚を知ることができ好評です。今年は愛媛県の自治体の方々も視察に来られ、興味津々でした。

VRによる疑似体験でもブースでは受付管理やハーネスの装着など仕事があり、都連で対応できた年寄り二人では心許なく、日本学生連盟から各日２名の応援をもらいました。夏休みに駆けつけてくれたみんな、ありがとうございました！

航空スポーツ教室も酷暑対策。VRで疑似フライトを。

学連ニュース

前号でお伝えしたとおり、今年度はエリア間の交流を活発に行う方針で進めています。そこで、今回は上半期の交流の様子を報告しようと思います。

関東学連：対面で総会を開催

まず関東学連は、６月中旬に総会を都内のレンタルスペースにて対面で行いました。各エリアより新入生を含む十数名が集まり、決算報告や今年度のイベントについて濃密な話し合いができました。その後、ピザを分け合いながら普段の様子やホームエリアの特徴などを紹介しあい、終始にぎやかな雰囲気でした。オンライン開催では作り出せない空気を味わうことができ、非常に有意義な時間となりました。

さらに、夏休みにはお互いのエリアを行き来してビジターフライトを行いました。同じ空を一緒に飛ぶことを通じて、親睦がより深まったと思います。

関西学連：ボードゲーム交流会実施

一方、関西学連は８月にボードゲーム交流会を行いました。特に大会以外で関わることのない、異なるエリアで活動するフライヤー同士の仲を深め、同期を探す目的で行いました。色々な種類のカードゲームを行い、特に皆で話し合いながら完成させていくゲームでは、会話が盛り上がり、すぐに初対面同士のぎこちなさはなくなりました。

昼はお好み焼き店で、各サークルの講習方法や大学生活、プライベートなど楽しくおしゃべりしながら昼食をとりました。練習場所によって講習内容や方法が違っていたので、情報・考え方の共有に繋がり、興味深い話もあって楽しかったです。

今回の交流会で関西学連メンバーとしての繋がりを深めることができたと思います。これからの合宿や大会準備に向けて、気軽に協力し合える関係になれていたら嬉しいです。

砂丘合宿：確実にレベルアップ

最後に砂丘合宿についてです。９月３日～６日に全国の学生フライヤーが鳥取砂丘に集い、安定した海風を利用して基本的な練習を行いました。直前の台風予報を覆し、全日素晴らしいコンディションで練習できたため、みんな確実にレベルアップできたのではないでしょうか。特に新入生は初飛びに大きく近づいたと思います。

最終日には合宿の集大成としてミニゲームを行いました。パラは丘からの飛距離を競いましたが、操作の安定性にとどまらず、リッジを利用したコース取りなど、非常にハイレベルな戦いとなりました。一方ハングは、動作をインストラクターの方に採点していただきましたが、高得点が続出し、合宿の成果を感じられる結果となりました。

学連ではX（旧Twitter）でも積極的に情報発信をしています。

@jsff_flyerをフォローし、活動の様子をぜひチェックしてください！

副理事長　浅田拓郎
関西学連　豊島愛祐

ボードゲーム交流会で打ち解ける。

砂丘合宿は全日好天、みなレベルアップできた。

インストラクターを囲んで砂丘合宿参加者たち。

特別寄稿

いい流れを作り躓きを修正し最後まで持っていく。

第2回FAIパラグライディングアジア・オセアニア選手権　女子選手権者　平木 啓子

今年６月に韓国の聞慶（ムンギョン）で第２回FAIパラグライディングアジア・オセアニア選手権が開催され、日本チームの平木啓子選手が女子選手権者の座を勝ち取った。特に気合いが入ったという今大会、その勝因を平木さん自身の言葉で綴ってもらった。

他選手の力に闘志が湧き立つ

2012年に中国で第３回アジア選手権が開催されて以来、久しぶりのアジアでの大陸選手権です。今回はオセアニアも加わり、オーストラリアから有力な女子選手が参加しました。韓国の女子も年々実力をつけており、中国の女子は特に国際大会では見かけませんが、男子の近年の実力からすると侮れません。もちろん、日本の女子も実力者揃い、大いに闘志が湧きたちました。

ものすごく気合いが入った要因は、この選手層の厚さだけではありません。2018年のインドネシアでのアジア大会では、団体戦ではありましたが女子銀メダルで終わり、金メダルを逃しています。今回は金メダルを手にし、表彰台の一番高い所で国歌を歌いたい、とか、世界戦の日本代表権獲得のための国際ポイントをゲットしたい等々。

でも一番の思いは、自分の競技続行を応援してくれる会社に移籍して以降、いい成績を出せておらず、この大きなタイトルを獲って恩返ししたい、というものでした。ただ不安もありました。自分は、気合いが入りすぎると空回りして失敗してしまう、という傾向にあります。そうならないよう自制して臨もう、と言い聞かせていました。

危ないところで冷静さを取り戻す

ところが迎えた初日、昨年飛んだことのあるエリアということで自信満々に低く先に突っ込んで大失敗、途中でスタックしまくり、遅れに遅れてしまいました。恐れていた空回り状態です。初日から降ってしまうわけにはいかない、せめてゴールだけでも、とちょっと無理をしながら進んでいたのですが、ゴールの３キロほど手前、一緒に飛んでいたグライダーが満々と水を湛えた田んぼのど真ん中にランディング。インテークを前から田んぼに落としてしまい、派手に水しぶきが上がるのを目にしました。ヤバイヤバイヤバイ。それを見て急に憑き物が落ちたようで、一気に冷静さを取り戻しました。

体だけじゃない、グライダーとハーネスも守らなくちゃ。頭はすっかり切り替わり、安全第一、その次に成績。気負って前に前にガンガン突っ込むのではなく、機を見て緩急をつけて臨機応変な飛びを、というような一歩引いて自分をそして戦局を冷静に見られるようになりました（たまに熱くなり制御が効かなくなったりしましたが）。

いい流れを維持して今日もゴールできた。

躓きを修正しながら最後まで。女子表彰で中央に立つ。

いい流れをキープして勝利へ

そうして、日々ゴールを重ねることによって順位が上り、順位が上がれば自信がついて攻める飛びに徐々に転じてゆき、攻めが成功すればそれなりの好順位でゴール、といい流れが作り出され、その流れを最後まで崩すことなく飛ぶことが出来ました。途中、雲中飛行の疑惑をかけられ、証明する手段はなく泣き寝入りしてしまいそうでしたが、主催者がトラックログなどを見て雲中飛行無しのジャッジをしてくれて、いい流れをキープ出来ました。

去年は最後の３日間が悪い方に傾き修正できず、プレ大会アジア人優勝という大きなタイトルを逃しました。いい流れを作りつつ、躓きを修正しながら最後まで持っていく。今回はこれが出来たように思います。

運･不運はどの大会でも必ずあって、ついてる時は何をやってもいい結果に繋がるし、ついてない時はちょっとしたミスから崩れて大敗したりします。まずは自分を制御していい流れを作り、ついてると感じたら大胆に、ついてないと感じたら流れが悪くならないよう修正しながら耐える、そのちょっとしたサインを見逃さないよう、アンテナを張って敏感でいるべき、ということを今回学びました。たまたまうまく勝てた、ではなく、恒常的にいい成績が残せるよう益々成長したいと思います。

アジア・オセアニア選手権女子優勝、本当に嬉しいです。ENZO3とサブマリンハーネスは、最高のパフォーマンスを発揮してくれました。こうした栄誉を手にすることができたのは、周りの方々の理解と応援のおかげです。本当に恵まれた競技人生です。感謝しかありません。ありがとうございました！

第46回鳥人間コンテスト2024

東北大ウインドノーツ・三鷹茂原下横田チームが優勝

報告：山本　貢

去る７月27日と28日の二日間、恒例の鳥人間コンテストが琵琶湖で開催された。

昨年から、滑空機部門と人力プロペラ機部門の順番が入れ替わり、人力プロペラ機部門が先に行われるようになった。

まずは人力プロペラ機部門から。

昨年新記録を作って優勝したバードマンハウス伊賀の渡邊氏は、今年は不参加。

競技が始まって早々に、早稲田大学チームが15,646m、大阪府立大学チームが13,348mと、好記録が続出したが、その後、向かい風が強くなりだし、記録が伸び悩む…。そうこうしているうちに、対岸で発生した積乱雲が競技会場に流れてくるという予報となり、最後に残った東北大学ウインドノーツに撤収指示が出され、同大学のフライトは翌日早朝に持ち越される。

翌朝、朝凪の好条件の中、同チームのフライトが行われ、21,823mを記録。人力プロペラ機部門の優勝となった。

ウインドノーツのフライト終了後、滑空機部門の競技へと進められた。

東京都立大学チーム428m、九州大学チーム410m、飛ん女の会チーム386mと、悪くはない記録が続くが、時間と共に向かい風が強くなり始め、その後飛行距離は伸び悩む。そのうち、競技続行が限界的な強風となり、向きも琵琶湖の北側方向、向かって右側からの風にシフトしてしまう。

最後のフライトは、ディフェンディングチャンピオンである三鷹茂原下横田チーム。パイロットは大木祥資氏。

今までの常識から見れば、一見悪条件と思われたが、しかし…。

大木氏は、機首を向かい風側に合わせテイクオフ。強い向かい風で機体を上手く浮き上がらせ高度を獲得。その後、ゆっくりと左に機首を振り、テイクオフした方向とは反対の方角、つまり、追い風を背負う形で距離を伸ばし始めた。今までに無かったテイクオフ方法である。

追い風を背負った大木氏は、見たことがない滑空比の飛行に移行し、見る見る距離を伸ばし着水。記録は645m！今までの滑空機部門最高、チームあざみ野の記録を100m以上も上回る大記録を打ち立てた。

これにより、滑空機部門の優勝は、三鷹茂原下横田チームが勝ち取った。

しかし、このフライトを実際に現場で見ていた私の個人的な意見ではあるが、こんな大記録であるにも関わらず、大木氏のフライトには、まだまだ余裕があるように感じられた。

おそらくではあるが、今回の大記録に触発され、チームあざみ野が、今回の三鷹茂原下横田の記録を塗り替えるべく、来年復活してくると思う。

昨年、人力プロペラ機部門で、バードマンハウス伊賀の渡邊氏が、更新困難な大記録（69,582m）をつくって、正直面白みが無くなっていたところではあったが、今回の滑空機部門の大木氏の大記録から、今度は滑空機部門が面白くなってきそうである。

滑空機部門優勝の大木祥資氏と、飛ん女の会の土取樹氏。鳥人間大会では、その役どころが正反対だが、個人的には仲がいい！

JHFからのお知らせ

■JHF会費のd払いができます

JHF会費のウォレット請求書払いで利用可能な決済アプリ（LINEPay、auPAY、PayB）に追加して、2023年７月からd払いが可能になりました。ウォレット請求書払いとは、払込票に記載されたバーコードを、ウォレットサービスのスマートフォンアプリで読み取ることでお支払いを可能にするものです。

会員登録更新案内の払込票に記載されたバーコードを読み取って決済してください。事務局でデータ確認ができ次第、ご登録の住所宛に会員証をお送りします。

決済から１週間が過ぎてもお手もとに会員証が届かない場合は、お手数ですが、JHF事務局までお問い合わせください。

■１年会費のみになりました

2023年６月13日のJHF定時総会でJHF会員会費規約の改正が承認され、フライヤー会員会費は2024年１月１日より１年会費のみに。これによって、事務局業務の効率化も図っていきます。

■JHFインスタ：ショート映像募集

JHF公式Instagramを始めました。パラグライダー、ハンググライダーを知らない方に興味を持ってもらえるような、気持ちよさそう！飛んでみたい！というショート映像を紹介します。

ハンググライダーまたはパラグライダーでのテイクオフ、フライト、旋回、ランディング等をしている15秒～60秒程度の動画を募集していますので、あなたやお仲間の動画をぜひ！　ただし一般の人が見て危険に感じるようなものはNGです。詳細はJHFウェブサイトをご覧ください。

■エリア情報を集めています

ドローン実用化に伴いハンググライダー、パラグライダーのエリアの正確な把握が必須です。エリア管理担当の皆様、エリア名、テイクオフ、ランディング所在地、GPSコード情報をお知らせください。現在把握している情報はJHFウェブサイトに掲載しています（左下のQRコード）。ウェブフォームからの入力もできますので右下のQRコードからご覧ください。

ozone
ozone

第11回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト　最優秀賞　Rick Nevis “Chasing Sunset”

写真で空の仲間を増やそう！
第11回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト　入賞作品発表

ハンググライダーやパラグライダーの写真を多くの人に見てもらうことによってこのスポーツの普及に繋げることを目的として、今年第11回を迎えたJHFフォトコンテスト。「ハンググライダー、パラグライダーが中心となって撮影された写真で一般の人の目を引きつける」「ハンググライディング、パラグライディングの楽しさ、素晴らしさ、そして身近なスポーツであることを伝える」という二つのテーマで作品を募集し、応募総数186作品のうち119作品が会員外の方の応募でした。皆さま、ご応募ありがとうございます。

今回もフォトグラファーの嘉納愛夏さん、山本直洋さん、安田英二郎JHF会長が厳正な審査を行った結果、ヒッキ・ネーヴィスさんが最優秀賞に輝きました。入賞・入選された皆さま、おめでとうございます！

なお、入選作品ならびに応募作品の中の季節感のある優れた写真を採用して2025年JHFカレンダーを作ります。カレンダーの詳細は12ページ／JHFウェブサイトでご覧ください。

最優秀賞　Rick Nevis “Chasing Sunset”

最優秀賞
Rick Nevis “Chasing Sunset”
撮影地：ニュージーランドKarioitahi Beach

●受賞者から●

2020年からJHFフォトコンテストに参加させていただいていますが、数々の素晴らしい作品があるなかで、今回最優秀賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。この写真はニュージーランドで秋の始まりである４月に、カリオイタヒ海岸で撮影しました。このときのビーチソアリングで、360度カメラが捉えた瞬間は、これまでにない視点をもたらしてくれました。写真を見る方が、私と一緒に風に乗り、地平線を楽しむ感覚を少しでも味わってもらえたら嬉しいです。

十代でスカイダイビングを始め、気がつくと空は私にとって特別な場所になっていました。時が経つにつれ、フリーフライトを通して自然との深いつながりを感じるようになりました。風が頬をなでる感覚、離陸前に大地を感じる瞬間、遠くに聞こえる海の音、草や空気の匂い、これらを通して、フライトはただの楽しさだけでなく、自分が大いなる自然の一部であることを再認識させてくれます。それは、ある意味、身体の躍動を通してなされる瞑想であり、空を知る者に与えられた特権のようにも感じます。このような感覚が、私が空を自分の居場所であると感じる理由なのかもしれません。

●嘉納評●

画面から飛び出てくるようなインパクト。美しい自然の色とパラグライダーのコントラストの調和が見事です。

太陽の光に照らされたものが黄金色に染まる時間帯を選んだことで、抜きん出た作品に仕上がっています。水平ではない構図も躍動感を表現するのに一役買っていますね。ひとつの絵として出来上がっています。

大きな動きを感じさせるリズム感があり、静かそうな環境（一人であること、聴こえるのはさざ波の音とたぶん鳥の声、心地よい風を感じてそう）なのに動的。写真を見る人に楽しさと感動を与えることでしょう。何処から来て何処へ行くのか、といった物語を感じさせ、想像で遊びがふくらみます。

この作品は募集テーマの二つを必要十分に満たしています。与えられたテーマを満たすのは当然かもしれませんが、実はとても難しいことなのです。

これからもこのような世界観を大切に、また素敵な写真を見せていただけたらと思います。

●山本評●

とても気持ちの良い写真です。おそらく360度カメラで撮影したものだと思うのですが、カメラの特徴をとても良く活かしています。

普通360度カメラで撮ると歪みやスティッチ（画像結合）部分が不自然になってしまうことも多いのですが、そういった部分が気にならない絶妙なアングルで書き出しており、センスを感じます。

この場所でこのグライダーでソアリングするというのはパラグライダー技術も必要になると思いますが、余裕で乗りこなして楽しんでいるように見えます。また夕日とその光の当たり方もとてもいいですね。

フォトコンテストの最優秀というとやはり一眼レフなどしっかりしたカメラで撮らないと、というイメージが強いかもしれませんが、このようなアクションカメラでも十分良い作品が作れるということを証明してくれました。

優秀賞
近藤 洋「砂丘を飛ぶ！」
撮影地：鳥取県鳥取砂丘

●受賞者から●

この作品は、鳥取砂丘博物館へ見学に行った際のモノです。このパラグライダーは、とてもキレイで砂丘の入口附近から見えていましたが、何処で誰が操縦しているのか不明でした。

しかし、キレイなので砂丘へ来た記念と思い撮影したものです。パラグライダー自体が小生の住んでいる地域では見ることなどありませんので、記念にと思って撮影したモノです！！

なお、過去の入選作品を見ていますと、とても自分の作品が入選するなんて思ってもいませんでした。
「参加することに意義がある！！」
有難う御座います！！！

●嘉納評●

コンセプチュアルアートのようなイメージで構成された画面です。

鳥取砂丘というロケーション、砂丘が画面の大部分を占めることで、写真家・植田正治の作品のオマージュにもなっています。（狙って撮られたと思いますが無意識なら驚きです）

風紋や足跡をクローズアップしたり強調するような撮り方をするのではなく、あえて引きで撮影したところにセンスを感じます。贅沢を言えばもう少しこのシリーズのバリエーションを見たいところでした。

主題となる被写体（パラグライダー）とそれを見ていると思われる人物を、

優秀賞　近藤 洋「砂丘を飛ぶ！」

画面上部の左右に　ポツン　ポツンと配置することによって「え？どういうこと…」と見る人に意外性と思考を与えるでしょう。左端の人は関係者なのか？　無関係にも見えますし、小さすぎてよくわからないところももどかしいけど面白い。

自然の景色は空・海・大地の三つでシンプルに構成されておりコントラストが小気味よいです。パラグライダーの色も空色と砂丘の色に被っていて「ただ其処にある」的な、奇をてらった写真ではないのに「とても気になる。」そんな作品でした。

●山本評●

これはもう写真家としてのエゴになってしまいますが、写真家・植田正治の作品を連想させる風景にパラグライダーをさりげなく入れるというアイディアに脱帽です。実際植田正治氏の作品を意識して撮られたのかどうかはわかりませんが、鳥取砂丘でパラグライダーをやっている写真を撮ろうとして普通はこのような構図で撮ろうとは考えないと思います。そこを敢えてパラグライダーはおまけ程度にして思い切って砂漠を画面いっぱいに写し、そして上部に少し青い海と空が入っているのもとてもよいです。

鳥取砂丘でパラグライダーをしている写真は今まで何度も見たことがありますが、切り取り方ひとつで全くイメージが変わりますね。ただ、JHFフォトコンテストの趣旨に合っているかというと難しいところなので最優秀賞には届きませんでした。ただ、このようなチャレンジは僕としては大歓迎なので今後も攻めた構図で撮っていっていただきたいです。

審査員総評

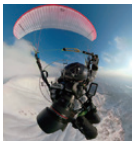
●嘉納愛夏

例年よりハンググライダーを撮影した作品が多かった印象です。一般の方の応募も多かったと聞きました。喜ばしいことだと思います。JHFのフォトコンテストは撮影年を問わないからか、年々「意外性のある且つ　構図の良い写真」の応募が減少してきているように感じます。いい写真を出していったら毎年フォトコンがあるので在庫がなくなった、的な感じでしょうか（笑）

美しい景色の中で飛んでいる写真を撮るならロケーション選定と撮影時間を考慮するのは当然ですが、想像力を働かせるとより良い写真が撮れると思います。イメージしてもそれに沿った写真が撮れることはあまりないかも知れませんが、高みを目指さないと中庸にも届かない、というのは実感としてあります。しかし、高みを目指す中で運に恵まれる（イメージと違うとしても）というのは往々にしてあります。それが面白いし楽しい。

意外性のある写真…今回なら［プールのスライダーの下から撮影された、滑っている人と偶然のように写っているパラグライダー］［座っている牛たちの背景にたまたま並んでいるようなハンググライダーの群れ］［せまそうな砂浜に下りようとするパラグライダーとそこで展開しているふたつのスポーツ］…が私はとても好きなのですが、過去のフォトコンであった［恐竜の巨大バルーンとパラグライダー］のような度肝を抜かれる感じも期待しています。写真はもっと遊んでいいのですよ。

●山本直洋



前回、最優秀賞と優秀賞がなかったため、今回はどのようになるか若干心配ではあったのですが、素晴らしい

作品が集まってよかったです。今回JHF会員以外の方からの応募が多く、パラグライダーやハンググライダーをやっていない人にも興味を持ってもらうというJHFフォトコンテストの目的の一つが達成できたのではないかと思っています。

そして今まであまりなかったようなアート寄りの作品がいくつかあったのが印象的でした。

パラグライダーやハングを入れてアートっぽい作品を撮るのは一歩間違えると意味のわからない写真になってしまうのでなかなかハードルが高いかもしれませんが、うまくはまれば上位入賞を狙えると思います。最初はうまく撮れなくても何度も繰り返し撮ってるうちにセンスは磨かれていくので、普通の撮り方に飽きた方はぜひ試してみてください！

あと、今回少し残念だったのは、犬などの動物を入れた写真もいくつかあったのですが、体の向きが悪かったり他の被写体とのバランスが悪かったりと惜しくも入選には選ばれませんでした。これに懲りずに動物を入れた写真もどんどん応募していただけたらと思います。

●安田英二郎

今年はフライヤー以外の方からの応募が目立ちました。フォトコンテストが広報の一つとなれば幸いです。

フォトコンテストでは写真的に優れた作品だけでなく、ハンググライダーやパラグライダーで飛ぶことが楽しい、すごい、やってみたいと感じるような作品も求めています。楽しそうな人が写っていたり、グライダーが大きく写っていると選考される可能性は高くなります。可愛い子供や動物が写っている作品も有利ですが、あまり技巧的だと印象が低下します。

素晴らしい景色の中を優雅に、あるいはダイナミックに飛行している写真は見る人の憧れを誘います。こういう写真は素晴らしいのですが、最近はフライヤー撮影者さんが既に自分のSNSで動画や写真を公開していることが多く作品の集まりはいま一つです。フライヤーのSNSによって普及が進むことも良いことなのでこれも仕方ありません。

入選

斎藤雄宰睦「幻想の世界へ」
撮影地：岡山県玉野市王子が岳パークセンター

岡田伸弘 “2014 Annecy”
撮影地：フランス アヌシー

溝手昌樹「スカイカフェ」
撮影地：岡山県王子が岳エリア

富樫 岳 “Somewhere We Belong”
撮影地：山形県南陽スカイパーク

大塚英夫「未知の光景」
撮影地：静岡県富士宮市田貫湖

人見勝己「ビーチパラダイス」
撮影地：岡山県王子が岳エリア

河本眞一「夏の日の思い出」
撮影地：長野県平谷村

2025年JHFカレンダーを頒布

第11回フォトコンテストの入選作品と、応募作品から選んだ季節感のある写真で、2025年のJHFカレンダーを作り頒布します。仕上がりサイズはA4。これを上下に開き各月A3サイズの縦型吊り下げタイプです。

ご希望の方はJHF登録スクールでご購入いただくか、JHF事務局にお申し込みください。頒布価格は１冊600円（送料込）です。頒布の準備ができ次第、詳細をJHFウェブサイトでお知らせします。

第１回FAIパラグライディングジュニア世界選手権

世界レベルを肌で感じ多くのことを得た

2024年8月18日-31日　スロベニア トルミン　報告：チームリーダー 佐藤友紀

26歳以下のパイロットを対象とした第１回パラグライディングジュニア世界選手権が８月18日～31日にスロベニアで開催されました。20ヶ国74名（うち女子11名）が参加。日本は大澤彩花と花田瞬の２選手が参加予定でしたが、花田が自己都合により不参加となったため、選手１名にチームリーダー１名での参加となりました。

大澤選手（左）と佐藤チームリーダー。

エリア

開催エリアはトルミン。メインテイクオフであるコバラの標高は約1050m（高度差は900m）で、南西～南東の風に対応しています。エリアの性格をひと言で表すなら、ヨーロッパアルプスらしい山岳エリア。基本的にフライト空域となるのは１本の谷で、極端に狭いわけではないので風の流れはシンプルで、ヨーロッパアルプスを飛び慣れないパイロットにも比較的飛びやすいエリアでしょう。テイクオフは森林限界よりも低く緑に覆われており、日本人にも心理的なハードルは低いと言えます。

また、車で１時間ほど南に位置し、より標高の低いリヤック（テイクオフ標高565m）をサブエリアとして使用することで、強風でトルミンで飛べない日であってもタスクができました。

発達する雲の下を駆け抜けてゴールした大澤選手。

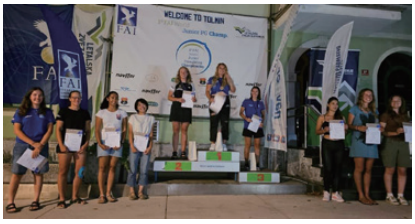
大会を終えて

条件によっては荒れた空域を飛ぶことも何度もありましたが（大会期間中のレスキュー開傘が２件）、大澤選手は最後まで集中力を切らさず安全に飛びきることができました。

現時点の大澤選手の実力を考えると、表彰台レベルの結果を残すことは期待できない参加でしたが、世界のレベルの高さを肌で感じること、その中でレースの飛び方を学ぶこと、他国チームの在り方を目にすること、日本よりも自由度の高いヨーロッパのパラグライダーの現状の一端に触れること、世界の同世代のパイロットと交流すること、などなど、大澤選手にとって非常に得るものが多かった大会となりました。

JHF大会での実績がなかった大澤選手が今大会に参加するにあたっては、JPA大会での過去の成績からフライトスキルに問題はないとの判断で、特別推薦という形で参加資格を得たと聞いています。

総合表彰。スペインのビルチェスがジュニア世界一に。



女子表彰。大澤選手は７位（左から４人目）。

国別表彰。フランスを中心にヨーロッパ勢が並ぶ。

協会の枠組みを超えて次世代のパイロットに貴重な経験を積む機会を与えてくださったことに、今大会のチームリーダーとして、また日本のパラグライダー界全体がもっと自由で楽しいものになってほしいと願う、一パイロットとしても感謝しています。

今回の経験から学んだ多くのことを活かし、大澤選手が日本のパラグライダー界をより良く元気なものに変えていく原動力の１つになってくれることを期待しています。

［総合］
１位 Marcelo S Vilchez ESP
２位 Adrien Raisson FRA
３位 Dusan Surina Jr. SVK
４位 Flavio Funiati FRA
５位 Justin Puthod FRA
６位 Ondrej Pohorelsky CZE
７位 Jose J Belda ESP
８位 Brandon Hankins USA
９位 Marcos S Fernandez ESP
10位 Dylan Mansley GBR
61位 Ayaka Ozawa JPN

［女子］
１位 Constance Mettetal FRA
２位 Celine Lorenz GER
３位 Capucine Deliot FRA
４位 Daphnee Ieropoli FRA
５位 Sarah Zimmermann UI
６位 Kanan Thakur GBR
７位 Ayaka Ozawa JPN
８位 Riley Ferre USA
９位 Aenaelle Acres USA
10位 Maria E. H. Quintero COL

［国別］
１位 France
２位 Spain
３位 United Kingdom
４位 Germany
５位 Czechia
６位 Switzerland
７位 Slovakia
８位 Italy
９位 USA
10位 Colombia
17位 Japan

2024パラグライディング日本選手権 in ASHIO

風雨に阻まれ日本選手権は不成立に終わる

2024年9月20日-23日　茨城県石岡市nasa足尾山エリア　報告：競技委員長　板垣 直樹

ここ足尾山エリアでの日本選手権の開催は２年ぶりとなる。

週間予報では秋雨前線の影響で飛べるか危ぶまれたが、直近の予報で雨は一日だけとなり北海道から九州までの日本選手71人とアメリカ、中国、台湾からの参加もあり、総勢75人の選手が集まった。

Day１

朝は曇っていたが、常陸太田への45kmのストレートゴールタスクが組まれた。南西の風が入り、昼過ぎから晴れてくる予報に13:30足尾スタートとした。

選手のトップは梅岡が西に飛び、粘るものの上がらずランディング。その後しばらく誰も西に飛ばない時間が続くが、早めの東風が入ると選手達は続々と飛び出していった。

しかし海風の入ったサーマルは渋く、800m程しか上がらず厳しい展開となる。足尾から直接、板敷への谷渡りをする集団と加波山経由で確実に山を進む集団の二手に別れた。盆地から出ると徐々に積雲が衰退し、更に予想外の南東風に苦戦しながら集団の力で駒を進める。

そんな中、先行して低くなる選手をしり目に飯田ダムパイロン付近で上げ切った中村が22.6kmを飛びこの日のトップとなった。スポーツクラスでは18.1kmを飛んだ辻本がトップ、総合でも６位と健闘をした。

タスクは？……ブリーフィングに集まった選手たち。

タスクコンプリートをめざしてテイクオフ。

Day２

朝から低い雲が垂れ込めテイクオフは完全にガスの中。終日晴れる見込みはない予報で、テイクオフに上がることなく競技キャンセル。

Day３

朝から雨模様で早々にキャンセル決定。nasa恒例のBBQパーティーをお昼から盛大に開催した。

Day４

朝から晴れるものの、昼には10m/s近い北東強風が吹き荒れる予報のため、スタート地点をハングT.O場からnasaTOPに移して競技を開始する。

タスクは猿公園を取って足尾山頂から関城ゴールの28km。10時55分に早めのゲートオープンとする。

テイクオフ後、雲底に付けた選手は安定した風でフライトには問題ないコンディションと思われた。しかし時間の経過とともにテイクオフの風速が上がり、スタート直前になってもテイクオフできない選手が十数人も残っている状況。

サーマルは渋く厳しい展開のなか中村が健闘。

一方で、飛んでいる選手の中でも上げ切れずにいたスポーツクラスの選手等は前に進まなくなるほど風が強まり、激しく荒れて、レベル３もコールされ、これ以上のフライトは危険との判断からスタート15分後にタスクストップを宣言。スタート時間から65分を経過していないのでDay4はキャンセルとなり日本選手権として不成立となった。Jリーグ大会としては成立し、Day1の成績で表彰式が行われた。

［総合］

１位	中村　浩希	愛　知	637
２位	稲見　祐二	愛　媛	625
３位	平木　啓子	茨　城	559
４位	小梶　渓太	神奈川	546
５位	隅　　秀敏	東　京	540
６位	辻本　恵一	兵　庫	501

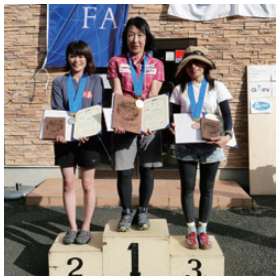
［総合女子］

１位	平木　啓子	茨　城	559
２位	東　　智子	大　阪	479
３位	金本　知子	兵　庫	389

［スポーツクラス］

１位	辻本　恵一	兵　庫	501
２位	東　　智子	大　阪	479
３位	渡邊　正剛	神奈川	425
４位	川口　　孝	長　野	379
５位	杉山　卓也	神奈川	365
６位	大田　豊承	長　野	351

総合入賞者。中村浩希が首位。



１位は平木啓子。総合女子入賞者。

スポーツクラス入賞者。辻本恵一首位。

みんな笑顔で大会を締めくくり。

Flyer's Voice
Hidetaka TEZUKA

手塚 英孝

タンデムパイロット
ホームエリア：スカイ朝霧・富士スカイスポーツクラブ（静岡県）

このすばらしいスポーツを多くの人に伝えていきたい

タンデムパイロット歴15年、モーターと山飛びの二刀流。
#飛ばないとただのおっさん　#ガテン系雲やろう

■ホームエリアの特徴や魅力などを教えてください

スカイ朝霧は、ランディングの広さと目の前の偉大なる富士山を眺めながら飛べる景色が最高なので風待ちも苦ではありません。また、飛べる確率が高いのも魅力です。富士スカイスポーツクラブは、駿河湾の最北部に位置する海岸沿いのモーターパラグライダーエリア。穏やかな海風を受け、とても飛びやすいエリアです。ここも富士山を目の前に海上から眺めながら、南には伊豆半島とキラキラと輝く駿河湾と、とても光が豊かなエリアです。

朝一のスカイ朝霧のテイクオフ。風を待ちながら刻一刻と変化する雲を愛でながら。

富士スカイスポーツクラブ。海風のちょうど良い風で飛びます。

■モーターパラグライダー（パラグライダー）を始めたきっかけは何ですか？

最初に始めたのは山飛びのパラグライダーでした。学生の頃、タンデムしてきた友人が『良かったよ』と話していたのを覚えていて、家族ができ、少し落ち着いてきた頃に、片隅に覚えていた友人の言葉を思い出しました。家族とタンデムの体験飛行をして『はーもうこれ絶対やる！』と始めたのがきっかけでした。その後、パイロット証、XC証、そしてタンデム証を取ったら早速タンデムのお仕事をいただけましたが、いかにせん経験不足…当時サラリーマンで海の仕事をしながら休日は全てパラグライダーに費やしました。が、それでも足りないと感じ、モーター付きなら近くで飛べると思い、兎にも角にも空にいる時間、風を感じる時間を増やすことに専念しました。それがモーターパラグライダーを始めるきっかけになりました。今は独立してパラグライダーをより専念することができましたがひとりで飛ぶ時間よりタンデムフライトの方が圧倒的に多く、それもまた悩ましい所でもあります。

モータータンデム

■モーターパラグライダーをやってよかったことってありますか？

有名な方とお会いできたり、いろんな素敵な出来事や出会いがあったことが良かったことです。何故かどうしてかテレビ番組からのオファーが多く？（笑）初めて大口のテレビ番組が『林先生の初耳学』でした。

空撮写真家『山本直洋』さんとお仕事（タンザニア・キリマンジャロ）5,300mにて。背後に見えるのがキリマンジャロ

■モーターパラグライダー（パラグライダー）の一番の魅力は何ですか？

山飛びパラグライダーは老若男女問わず自然の力をお借りして行うので平等に飛べるのではないかというところが良いと思います。また風の力だけで飛ぶので、自分と自然との繋がりを感じる事ができ人生の活き方を教わるようで人生の道標になるところ。

モーターパラグライダーは何といっても０mからの離陸で開けた場所から飛べることです。特に海岸から飛んで海の上を飛べるのは爽快です。

私はダウンヒルバイク、スキー・スノボー、モトクロスバイク、サーフィンなどなどといろんなスポーツをしてきましたがパラグライダーではほとんど怪我をしていません。

■これからの目標は何ですか？

『この素晴らしいスポーツを多くの人に伝えていきたい』

タンデムパイロットとして安全にそして魅力的にしていきたい。併せて撮影技術を高めて、映像としても伝えたい。あとは気象が好きなので気象予報士の資格を習得する。これは気象・海象ともに人命にも関わる大変責任のある仕事ですが、実際に空や海にいた経験が活かされればと思います。

安全に空の魅力を伝えていきたい。

Flyer's Voiceバックナンバーは JHFウェブサイトでご覧ください。

JHFからのお願い

■お名前・ご住所が変わったら早めにお知らせください

発行のたびに宛先不明で戻ってくるJHFレポートが少なくありません。

JHFレポートには、フライヤー会員の皆さまにぜひ読んでいただきたい情報を掲載しています。氏名や住所に変更があったら、お手数ですが早めにメールかFAXで事務局にお知らせください。

［お知らせいただきたいこと］
・フライヤー会員番号
・お名前（氏名変更の場合は新旧名）
・新しいご住所
・連絡先電話番号
・メールアドレス

もしフライトのお仲間に転居された方や、お名前が変わった方がいたなら「JHFに変更の連絡をした？」と声をかけていただけると、たいへん助かります。

■各種申し込みやお知らせお問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人
日本ハング・パラグライディング連盟
〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301
TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089
E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp
https://jhf.hangpara.or.jp

事務局業務の効率化のため、ご連絡はできるだけメールでお願いします。回答が通常より遅れることがありますが、順次対応をいたしますのでご理解ください。

＊このJHFレポートには、注意喚起「レッグベルト締め忘れでまた重大事故が発生!!」を、神奈川県在住の方には県連盟からのお知らせも同封しています。

■紙ではなくPCやスマホでJHFレポートを読みたい方に

JHFレポートは、毎号、紙に印刷したものをフライヤー会員の皆さま全員にお送りしていますが、紙ではなく、PCやスマホで読みたいという方が最近増えているようです。

JHFレポートはJHFウェブサイトでもご覧いただけます。印刷版が不要の方は、お手数ですが、JHF事務局までメールでご連絡くださるようお願いします。

JHFレポート247号
発行日：2024年（令和6年）10月30日
発　行：公益社団法人　日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）
編　集：JHF事務局
印　刷：株式会社アイセレクト
本レポートの一部あるいは全部を無断で複写複製することはご遠慮ください。

くじを買うはエールになる
スポーツくじ WINNER toto BIG
19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

上空利用可能デジタル無線機使用のお薦め

JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

デジタル方式なので混信が少なく、クリヤーで聞き取りやすくなっています。上空利用５チャンネルまたは15チャンネルを搭載している現在の対応機種は、STANDARD製のVX-D291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、IC-DPR4、IC-DPR4 PLUS、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHFウェブサイトにバナーを掲載しているJHF賛助会員からも購入できます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を13台保有し、フライヤー会員に貸し出ししています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているかご確認ください。

登録をしないまま無線機を使用しますと、不法無線局として処罰の対象になります（１年以下の懲役または100万円以下の罰金）。お忘れのないようお願いします。